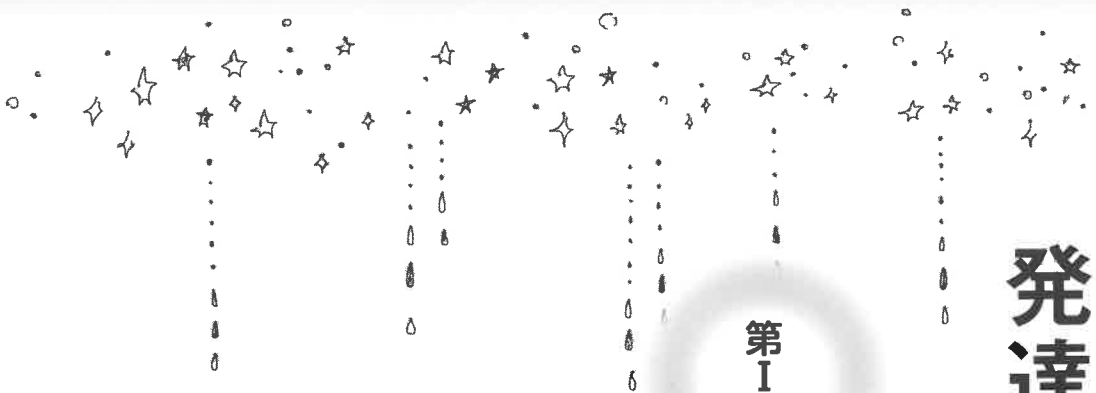


発達の中の

煌めき

第1部

障害のある子ども・なかまの発達



白石正久 白石恵理子

しらいし まさひさ / 1957年、群馬県生まれ。小児科病院の発達相談員などを経て、現在龍谷大学名誉教授。

しらいし えりこ / 1960年、福井県生まれ。大津市発達相談員などを経て、現在滋賀大学教育学部教授。

第4回 言葉の世界を拓く —障害のある子どもといっしょに創る文化を通して

私たちの共通の友人であった羽田千恵子さんは、二〇一五年八月、大好きだった全障研全国大会の日に還らぬ人となりました(享年六四歳)。彼女が就職に就いたのは、一九七九年養護学校義務制実施の年。最初の赴任校は、重症心身障害児施設第二びわこ学園(現・びわこ学園医療福祉センター野洲)内にできた滋賀県立八幡養護学校野洲校舎でした。それから退職されるまで、重症心身障害児の教育実践に携わります。話し言葉で表現することがむずかしい子どもたちの「心の声を聞きたい、語りあいたい、そしてねがいを引き出したい」という思いをもち続け、子どもたちといっしょに魅力的な授業の数々を創りだしていった三二年間でした。彼女は、亡くなる間際まで書き続け、それは『文化に出会い、友だちに出会う—障害の重い子どもたちと創る授業・教育・学校』(クリエイツかもがわ、二〇一九)として遺されました。

本当に言葉を理解していないのだろうか

五月号、六月号では、「乳児期」とよばれる段階をとりあげました。この時期の子どもたちは笑顔や喃語、模倣、指さ

しなどで相手と交流します。そして、一歳半ころに大きな質的転換期を迎えると、話し言葉の世界に入っていきます。

羽田さんは、八〇年代には「笑顔の獲得」を目標として、揺さぶり遊びや感覚遊びを実践の軸にしていたと振り返ります。しかし、その後、乳児期の段階にいるようにみえる子どもたちのなかに、教師の言葉を理解して応答しようとしていたり、肢体不自由による大きな制約がありながらも道具を使いたいという要求をもっている子どもたちの存在に気づいていきます。そうした子どもたちは、就学前の療育で楽しい遊びをたっぷり保障されてきた子どもたちでした。

その一人が、羽田さんの著作に幾度か登場する「ありちゃん」です。脳梁欠損の診断を受けたありちゃんは、訪問療育、通園での療育、そして保育園での障害児保育を経て養護学校(当時)に入学します。発語はなく、「フン」と声を出そうとしても「とても緊張して目をしばたいたいて顔をそむけ、結局『イヤイヤ』と言うように泣けてしまうことも多く、自分の気持ちを伝えることに大きな困難をもっていま」した。また、いつも眼前でタオルを振り続けており、そのタオル

と哺乳瓶以外は、手に持つこと、持たされることに過敏に抵抗を示していました。
子どもをつなぐ文化のねうち

羽田さんは、長年の教育実践でおはなし遊びにこだわってこられました。

ありちゃんも、一年生一学期に初めてのおはなし遊び「四ひきのねずみ」(題材は、いわむらかずお『14ひきのびくつく』童心社)にとりくみます。まずは紙芝居：しかし、絵を見ようとはしません。何回目かの授業で、その日は参観日のため保護者と一緒に小さなきょうだいたちも教室にいたのですが、そのなかの一人が「あつ、〇〇や」と紙芝居の絵を指さします。先生たちが「そうやなあ、〇〇やな」と心えたところ、ありちゃんは大きな目を開けて、紙芝居をのぞき込むようになったそうです。

お弁当をもってピクニックに出かける場面では、それまでタオルと哺乳瓶以外、ほとんど持とうとしなかったありちゃんが、果物のおもちやを握ります。でも握ったかと思うとすぐに放ってしまい：それを先生が必死にお弁当箱で受けとめる、ということがしばらく続きます。でも、授業を重ねたある日、手が確実に

お弁当箱の方に動き、そこでパッと放したのです。「何をするのがわかっている、でも過度に緊張して、顔もそむけ目もギョッと閉じてしまいうけど、手が求められた意味に応じた行動を瞬間的にしている」と気づきます。

羽田さんがおはなしにこだわり続けたのは、おはなしという文化を通して、人がつながっていくことを大切にしたいからです。障害の重い子どもたちも友だちを意識していることに確信をもち、子ども同士のかかわりあいのもつ妙味を楽しみながら授業づくりをされています。また、単に集団を保障するだけでは、一人ひとりのかけがえのない価値を引き出すことはできない、友だちとつながるには、共有できる世界、媒介する文化が必要であるという強い思いをもっていました。それは、子どもの生活とかけ離れた高尚な文化を一方的にもちこむというものでは決してありません。教師もそれぞれに好きな世界があり、その人ならではの感性をもっています。また、声の響きや、子どもにタッチするときのやわらかい手の動きなども含めて、文化的もちあじもっています。こうした文化的もちあじは、子どものなかにもありま